八尾市芸術文化振興審議会ワーキング部会議論概要

1. 八尾市がめざす文化的コモンズについて

(主なご意見)

- ・各主体同士のネットワークは、同調圧力とならないよう、緩い結びつきの方が良い。
- ・八尾版の文化的コモンズの役割には、文化会館だけではなく、市の役割もきちんと明記すべき
- ・文化的コモンズという言葉は、専門的なので、そのまま使うのではなく、市民に受け入れられるよう八尾独自の言葉を考えてみてはどうか（この提案を受けて、条例上は「八尾ならではの芸術文化による共創・共生社会の形成」としています）

2. 条例に記載すべき項目のうち、「前文」、「目的」、「基本理念」、「役割」、「取り組み内容」の各項目について

(主なご意見)

【前文】

- ・河内音頭だけでなく（当初案になかった）「ものづくりのまち」（6行目）や「河内木綿」（7行目）も入れるべき
- ・（当初案になかった）「鑑賞」の重要性も入れるべき（14行目）

【目的】

- ・（当初案であった）「人づくり」「社会づくり」「まちづくり」ではなく「人をつくる」「社会をつくる」「まちをつくる」とし、それぞれは双方向であるべきだ

【基本理念】

- ・八尾市が抱えている社会課題を踏まえどのようなまちにしていきたいのかが必要
- ・傷ついた人たちが芸術文化を通じて新たな挑戦を始めて変わっていく姿をみて、芸術文化の力のすごさを感じたので、それをうまく盛り込めるといい

【役割】

- ・この条例はメッセージ性が強い条例であると考えており、役割の並び順としては、まず「市」、次に「教育機関」、「事業者」、最後に「市民」とした方が市民に受け入れられやすいのではないか〈全体〉
- ・何もかも文化会館に役割を集約するのではなく行政の役割もきちんと明記すべき〈市〉
- ・子どもの絵が、たまたま選ばれて賞をとったことがあった。下手だが独創的だということで、自信をつけるきっかけとなった。小・中学校だけでなく、高等学校や大学もある中で、教育機関の役割については条例に入れてもらいたい〈教育機関〉
- ・中小企業が多い八尾らしい条例にするため芸術と産業の共生・協働のような内容を条例に盛り込んでどうか〈事業者〉
- ・例えば芸術文化を通して、経済を巻き込み障がい者の自立につなげることを積極的に打ち出すことができれば、他にはない中小企業の手を使った発信になるのではないか〈事業者〉
- ・市民の役割を定めること自体、押し付けになるのではないかという考え方のもと、条例に市民の役割を記載しない市も増えているが、どうか〈市民〉
- ・市民の役割を条例に記載するならば、「市民」や他の主体（「市」「教育機関」「事業者」）との交流・理解についても記載してはどうか〈市民〉

【取り組み内容】

- ・八尾の文化的コモンズの実効性を担保するためには、コーディネーターの育成や推進体制づくりが大切である
- ・ワークショップの上田さんの基調講演で、釜ヶ崎の面白さや好奇心が「芸術の源泉」という発言があったが、その源泉を掘り起こすというニュアンスの項目を入れてほしい
- ・大阪市内には自由に画材を使って絵を描けるカフェがある。絵を描くつもりがなく単にお茶を飲みに来た人がちょっと落書きをしてみる、そんな機会づくりが発掘につながるのではないか
- ・今後、計画の内容に関わる話かもしれないが、廃校 BASE の活用なども考えられる。実際にコロナで流れたが、子どもが廃校の壁に絵を描くイベントなども企画していた。